OMC News 大阪ムービーサークル

ＯＭＣ事務局　〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
広報編集局　〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
http://www.ne.jp/asahi/smaeda/12/

平成１９年４月（2007 年）No.４９６

ＯＭＣ恒例の一泊撮影会
２０名の多数が参加表明

この５月３日～４日（２日共祭日）、岐阜県垂井町の曳山祭（子供歌舞伎）撮影会に参加募集をしたところ、２０名の多くの方々から参加希望が寄せられ、企画者としてうれしい悲鳴を上げております。子供さん達が練習中の模様をこの４月 24 日（子供さんの練習）27 日（太鼓等の音も入れた本番前のけいこ風景）の両日、代表撮影をしてきます。希望者にはダビングしてお分けいたします。録画形式（ＤＶ、Ｗ、ＨＤＶの別）を確定したいので、関世話役へ例会日までに申し出てください。当日、雨が降らないことを祈るばかりです。なお、撮影会作品コンテストは、７月例会当日の 13 時から難波市民学習センターの例会場と同じ部屋を予約しておきました。

日本アマチュア映像作家連盟、大阪にて総会と撮影会
どうぞＯＭＣ会員皆さんのご参加を

来る６月２(土)３(日)４(月)にかけて日本アマチュア映像作家連盟の総会並びに懇親会（初日）及び飛鳥、奈良と貸切バスでの撮影会が行われます。初日はホテル・ニューオータニ大阪にて総会と懇親会です。翌日からの撮影会も含め、連盟会員の諸氏は勿論ですが一般の映像ファンの参加を呼びかけています。全国の映像仲間と親しく交流できる機会でもあります。本企画は合原連盟副会長をはじめ在阪の会員有志と旅行会社でお世話していますが、ホテルと 70 名参加を予約して宿泊代を安く設定していますので果たしてどれだけ全国から集まるのか気が気でなりません。地方の総会ではどこでもその地のクラブの会員さんが何かとお世話方々参加されていますので、大阪でもぜひご参加頂き撮影地のご案内等ご協力をお願いいたいと思います。くわしくは合原会長まで。

４月例会のお知らせ

４月例会は第４土曜日２８日午後６時より難波市民学習センターにて行います。撮影会に関しての最終お知らせもあり、会員諸氏のご来場をお待ちしております。作品の方もどうぞよろしく。

■東大阪映像フェスティバルへの出品お願い

東大阪市制４０周年の記念行事として、この9月2日（日）映像フェスティバルが布施駅前リージョンセンター夢広場で行われますが、それに先立って作品募集を行うとのことです。（コンテストではない。）

・**主催**：東大阪市夢広場企画運営委員会

・**テーマ**：原則として自由。但し東大阪および近郊のテーマを優先して採用する。

・**上映時間**：１０分程度以内のもの。

・**録画形式**：ミニDV、W、HDV可。

・**募集期間**：６月末日

・**問合せ及び提出先**：この企画運営に携わっておられる岡本至弘OMC会員に連絡してください。上映採用の折には薄謝礼が出るそうです。ご協力お願い、とのこと。

■３月例会で井上会員が立体映像を披露

研究熱心な井上さんが、赤、青のめがねを例会出席者数分を用意され、２台のカメラで撮った立体映像を披露、皆を驚かせました。詳しくは次のレポートをどうぞ。

３月例会のレポート

桜だよりもボツボツという季節となりましたが、今日は小雨模様の上、風も幾分きつい日でした。しかし映像好きの会員たち２７名の参加と１４本の作品が集まりました。４対３の作品がたったの１本という、時代の流れには驚きです。井上さんの立体映像も飛び出して、新しい事に挑戦される姿がまことに新鮮。楽しい例会でした。

今月の司会は吉岡氏、書記、関氏、機材係は河合、江村、増池の３氏。受付は宮崎、進藤の両氏。以上の世話役で進行しました。

■**出席者**：有村、井上、天草、岩井、江村、岡本、奥、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、鉄具、西井、錦、西村、華岡、藤原、増池、宮崎、森、森田、安居、山本、吉岡、渡辺の２７氏（敬称略）。

■**作品上映**（今月の講評は関世話役です）

１．一番福に挑む

吉岡貞夫さん　　１０分００秒

西宮神社で毎年１月１０日に繰り広げられる恒例の行事。午前６時、太鼓の合図で赤門が開かれると、待ち構えていた若者たちが本殿までの２３０ｍを我先にと一気に駆け抜けて行く。先頭の一番福には認定書のほか灘の酒の４斗樽と米一俵が授与されたと言うから、やっぱり戎っさんの本家は違うなと思った。去年は２番目だった若者が、今年こそはと満を持して備えていたのに不運にも足を怪我。その悔しさを涙ながらに語る姿を克明に追っていたが、ここらのインタビュー方法は作者の持ち味で実にうまい。ただ、撮影の協力者がいなかったのか、本殿前の決着の瞬間が無かったことが惜しい。

２．淡島神社の雛流し（WIDE）

増池　茂さん　　７分１０秒

普段は参詣者もまばらな淡島神社。石段を上がった正面が本殿だが、その内部は天井近くまで無造作に積み上げられたおびただしい数の雛人形に驚く。人形には女の魂が宿るというが、一人でいると、何か得体のしれない妖気が漂っているような感じがする。こんな神社は他所では見られない。３月３日。この日は朝から続々と人々が押し寄せ、昼頃には、あまり広くない境内が人で溢れんばかりになる。そのほとんどがカメラを携えた観光客だが、中には撮影会のグループも何組みか。とうぜん人に押されてビデオは撮り難くなるが、作者は朝早く人が来る前に撮ったのか、映像は安定した確かなもの。海岸の雛流しシーンも含め上手に作品にされていた。

３．木曽義仲一代記（WIDE）

紙本　勝さん　　７分３７秒

源氏一門の異端児とも言える義仲。倶利伽羅谷で平家を討ち功を挙げるが、頼朝をはじめ朝廷にも嫌われ、最後は瀬田の粟津ヶ原で義経らの軍勢によって命を落とす。作品は、不運の武将を描いた作者お得意の歴史物語。ただいつもと違うのは、ナレーションは無く、代りに三波春夫が高らかに謡う朗詠がつく。つまり歌詞に合わせてその場面の映像を張りつけるサウンド・オン・ピクチャー方式。作品の約半分は文献や展示物で、これだけ多くの資料を集める労力は並大抵ではないはず。しかも京都、近江だけでなく義仲の足跡を追い、北陸まで

出かけていって取材。作者のバイタリティには頭がさがる。

４．仏前にて（WIDE）

山本正夢さん　　４分００秒

ベトナムもやはり仏教国。敬虔な祈りを捧げる庶民の姿は、東南アジアのどの国で見るのも同じだ。お堂の前で着飾った女性が踊りながら紙幣を撒いていたのはお祭りか、それとも結婚式なのか。作者の言葉は「ただそこでやっていたので撮っただけ」だったが、見る側にとっては目的が判らず消化不良になる。いつものイメージ主体ではなく、このような客観的映像はやはりテロップで示すなど最小限の説明がほしい。

５．お相撲さんがやってきた（WIDE）

鉄具嘉夫さん　　１１分００秒

大相撲春場所の春日野部屋は交野市の星田会館に設営されていた。相撲部屋の朝は早く、６時にはもうけいこが始まる。まず２００回のしこ踏み。押しと摺り足。さまざまな体操のあと、二人で組む押し相撲の基本。動作はゆったりだが体が大きいのでなかなかの迫力。敷居の中央にデンと構えた親方は…と見ると煙草に火をつけ新聞を開いている。その後には早朝から詰め掛けた贔屓の人々、そしてビデオカメラで撮る外人女性も。張り詰めた空気の中にも和やかさが漂よう表現と編集方法。しかし１０分を越えるとさすがに長く感じる。

６．神戸ハーブ園温室（アナグリフ版）（HDV）　井上勝彦さん　　９分２０秒

毎回優れたアイデアと、ご自身で考案された撮影装置などのお話で例会を楽しく盛り上げて戴いているが、今月は２台のカメラで撮った３Ｄ映像。映写の前にその実物を見てびっくり。例のスタビライザーの上に並んでいたのは、なんと薄型のデジカメだった。つまり軽量化のため敢えてビデオカメラは使わず、デジカメのメモリーに動画モードで撮ったのだと言う。作品の内容は、まずグーグルアースの衛星立体図を地上１ｋｍくらいの位置に設定し、神戸港沖からまるで空を飛ぶようにハーブ園下のグラスハウスに向かい、そこから実像に切り替わってハウス内を巡るというもの。それを赤と青２色の眼鏡形フィター（人数分を作者がご持参）を通してスクリーンを見ると立体映像になる。表題のアナグリフ版とはその方式のことだそうだ。技術的なことはまるっきり判らないが、昔は映画館でもこの眼鏡で見る映画があったと記憶している。しかし歳のせいか（個人差はあるが）眼が慣れるまでかなり時間を要しまた疲れ易い。そこで偏光フィルターだったら。についてお訊ねしたところ、難しい技術を要するが挑戦してみるそうだ。アマチュアでここまで映像技術を追求される人は他にはいないと思う。わがクラブの貴重な存在。ぜひ成功されるよう期待したい。

７．趣味の世界（HDV）

安居利次さん　　７分１５秒

作者のご子息が最近ハマっているモノとは。その一つはドールズハウスというミニチュア。毎月少しづつ部品（建築資材）が送られてきて１年ほどかけて組み立てるのだそうだ。今できあがったのは昔風の純日本家屋。間口と奥行は５０ｃｍほどだが、家具、生活用品など小道具もすべて揃っていて精巧そのもの。アップで撮れば実際に田舎の家の中に居るような映像になる。風呂場の桶を指で押すと湯の流れる音が出る仕掛けもある。趣味の二つ目はなんと猫。お猫さま専用の部屋に入るとあっちもこっちも猫だらけ。ケージが１０個ほど重ねてあったから、それくらいの数を飼っておられるのだろう。世話はかかるし餌代もばかにならない。趣味と言えども生きものはたいへんだ。そして三つ目は奥さんのエレクトーンだが、これはもうプロ裸足の腕前。ところがこの作品の最初から演奏中の鍵盤がなぜかカットバックで出てくる。ミニチュアの曲は「虹の彼方に」猫は「ルパン３世」で、意味は全く判らない。ともあれ、この日本家屋と猫、それとエレクトーンの曲を合わせ、お得意のエフェクトでなにか不思議な映像が出来るのではないか。作者ならやれそうな気がする。

８．十日戎（HDV）

奥　宏さん　　７分４１秒

今宮のえべっさん。居並ぶ美人の福娘たちを容赦のないアップ撮りがすごい。男ならこの映像を見て相好を崩さない者はいな

いと思うが、あの人混みのなかで、よくぞまあここまで撮れたものと感心した。宝恵駕篭の有名人も見逃していないし、本殿裏のドラをたたく人との問答も面白い。十日戎の作品は毎年必ず出てくるが、これは文句なしの傑作。

9．お彼岸万灯会（HDV）
江村一郎さん　　6分10秒

近ごろは万灯会と称し、小さな灯篭に蝋燭を灯して道に並べる行事が各地で増えてきた。いつの頃からか、この宝山寺でも参道の両側にずらっと灯篭を並べる慣習になっているらしい。作品は生駒宝山寺の秋の彼岸法要の記録だが、いつもの鋭い切り口はちょっと影をひそめた感じ。なかに琴の演奏があった。カットバック手法ではないが、それが数回に分けて出てくる。画面が切り替わるとその都度琴の音が絞られ、代りにＢＧＭが強調されているのが少々気になった。トップのケーブルカーだが、これは鉄道マニアの一面が覗いているだけ。この作品には要らない。

10．小さな秋（改作）（HDV）
河合源七郎さん　　6分02秒

１月例会で発表されたＨＤＶ作品を再編集されたそうだ。どこがどう変わったのかよく分からない、と司会者。前回より３分ほど短くなっているが、印象としては司会者と同感。ＦＸ１の絵は確かに綺麗だが、紅葉と草花だけで作品にするのは撮り方によっぽどの工夫がないと時間がもたない。指摘を受け再度の編集。ということは、この作品にかなり愛着をお持ちのはず。それなら、もう少しめりはりのあるカット、例えば川の流れ、滝とか急流など動きのあるものを加えて一部構成を変えれば良いのではないか。

11．春麗（はるうらら）（HDV）
有村　博さん　　3分48秒

始めから終りまで、ぜ～んぶ花。オール花、はな、ハナ。他はいっさい無し。花と行列は難しいと言うが、ここまで徹底するとまた新鮮に見えてくるから映像づくりは面白い。アップとメディアムだけで構成したことと「早春譜」に合わせてリズム感をつけたのが良かったと思う。

12．のどかな公園（HDV）
渡辺雄史さん　　5分00秒

作者のＨＤＶ第一作目。小春日和の長居公園？のようにも見えるが、人々の服装は防寒着やシャツ姿などまちまち。たぶん別の日に撮ったものをひとつにまとめられたのだろう。しかし散策の家族連れを包む日差しはまさに春、のどかな季節感は充分に出ていた。

13．桃の節句（HDV）
森田光春さん　　6分48秒

富田林の寺内町は重要文化財の杉山家など江戸時代からの古い家並みが残る町。今年３月、桃の節句に合わせて家々を開放、「じないまち雛めぐり」とうたった催しがはじまった。それぞれ格式のある旧家だけに飾り付けは豪華そのもの。雛人形は家によって飾り方が違い、なかには文化財的に貴重なものもあり、作者は各戸をくまなく訪ね歩いてそれらを丹念に撮っておられたが素材が足りなかったのか、後半は大阪城の梅林がでてきてやや違和感があった。

14．オシドリの住む町（HDV）
進藤信男さん　　14分22秒

毎年冬になるとおしどりが渡ってくる場所がある。鳥取県西部の日野町根雨を流れる日野川。そこではおしどりを専門に世話をする人がいて餌付を行なっている。飛来する数も半端ではない。ただ、近くにＪＲ白備線の鉄橋があり、臆病なおしどりたちは列車が通るたびにその音に驚いて飛びだすそうだ。鳥にとっては決して安住できる場所とは思えないが、それにもかかわらずこれだけ多く集まってくるのは２０年以上も地道に餌付を続けてきた人びとの努力の成果だろう。このことが根雨地区の町おこし、とくに冬場の観光資源になっているのは間違いなさそうだ。さて、作者は但馬のこうのとり、出水のなべずる、そして日野のおしどり、と回を重ねる毎に撮影と描写方法が的確になり、この分野での作風を確立されたように思う。そこで提案だが次のシリーズでは鳥の生態に迫ってみると言うのはいかがだろう。